

## 保健体育科教師の悩み事に関する調査研究

岩田昌太郎・加登本仁\*・松田泰定・木原成一郎・徳永隆治\*\*・林俊雄\*\*\*  
久保研二・村井潤・嘉数健悟\*\*\*\*・林楠\*・藤本翔子\*\*\*\*\*  
(2011年12月2日受理)

### A Study on the Difficulties of Teaching in Health and Physical Education Teachers

Shotaro IWATA, Hitoshi KADOMOTO, Yasusada MATSUDA, Seiichiro KIHARA, Ryuji TOKUNAGA, Toshio HAYASHI, Kenji KUBO, Jun MURAI, Kengo KAKAZU, Nan LIN, and Shoko FUJIMOTO

**Abstract.** The purpose of this study is to grasp the reality of what problems teachers in health and physical education. The result was summarized in the following points.

1. The number of teachers in this study who were aware of problems was not high.
2. The problems can be categorized into four: a) institution and equipment, b) teachers' behavior, c) real conditions of students, d) others. In particular, it is speculated that drawing interest from students in limited amount of time and equipment is very hard to do.
3. The following problems were ranked high: setting aside a living hour, giving students' guidance, doing allocated duties of school management, getting latest information on subject matter or current news.
4. Many of the teachers ask colleagues' advices at school, but a certain number of them wish for getting solution out of school.

**Keyword:** physical education class, in-service teacher, difficulty, secondary school teacher

#### 1. はじめに

近年、わが国の教育政策を概観すると教員の資質向上についての議論が盛んに行われている。とりわけ、中央教育審議会答申(2011)「教員の資質能力向上」特別部会の基本制度ワーキンググループによる議事録においても「現職研修の在り方」が問われており、「教職生活全体を通じて教員の資質能力向上を図っていくことを支援するような方向で改革すべきであること。また、実施内容・方法については、個別的・協働的な学習をより重視する方向で見直しが必要である」が指摘されている。

そのような中、筆者らは第一報(加登本ら, 2010)において、現職教員である小学校教師が体育授業を行う上でどのような事項に悩みを感じているかの実態についての検討を行った。その結果、

授業での適切な学習規律の維持や子ども相互の協力的な関係づくり、また安全を確保したり意欲を喚起しながら指導することなどに関する悩みは相対的に低い傾向にあった。しかしながら、配慮を要する子どものニーズに応えることや一人ひとりの子どもの学びを把握するといった個別指導に関する課題とともに、自分が模範を示せない種目の指導や子どもに合わせた教材づくりなど、いわば体育授業における「内容的条件」に関する課題に関しては悩みが高い傾向がみられた。また、教職経験でこれらについてみると、体育指導に積極的に関与している教師と比べて、そうでない教師は全般的に悩み事の認知が高い結果を示していた。これらのことから、体育指導に積極的に関与する立場にない教師に対して、悩みを低減する方途を検討する必要があることが指摘された。

\*広島大学大学院教育学研究科博士課程後期, \*\*安田女子大学, \*\*\*梅光学院大学, \*\*\*\*沖縄大学, \*\*\*\*\*広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

また、第二報（加登本ら，2011）では、小学校教師が体育授業を行っていく上での悩み事を低減するために、これまでどのような解決方法をとってきているか、また悩み事の解決に向けてどのような機会や場を求めているのかの実態を把握し、有効な支援のあり方を検討することを目的とした。その結果、まず体育指導に関する悩み事を解決する方法としては、現状・望みともに「同僚」「文献」「HP」が高い結果を示していた。これにより、悩み事の解決に同僚教師が重要な役割を担っていることが考えられた。そして、体育指導に積極的に関与する立場にある教師は、そうでない教師に比べて学校外の研修や研究会に参加する機会に恵まれていた。それゆえ、様々な教師が体育授業に関する悩み事を解決するためには、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していくような校内研修の組織化が有効な支援として考えられた。次に、体育指導に積極的に関与する立場の違いでみると、体育を研究教科として担っている教師は、積極的に学校外に悩み事を解決する場を求めている。また、そうでない立場の教師も、学校外の場に悩み事の解決を求める意識は低くなかった。そこから、教師が学校外の研修や研究会にも参加しやすいような学校の風土づくりや、行政的な支援が必要であることが考えられた。

以上のように、小学校教師における体育授業の悩み事について検討した。一方、中学校及び高校における体育授業について保健体育科教師たちはどのような悩み事を抱いているのだろうか。

その点について、松田（2010）は、中学校の保健体育科教師の950名を対象にしたキャリアパターンについての質問紙調査において興味深い報告をしている。それは、以下のような点である。

①保健体育科教師は、45歳以上の教員が約5割を超えている、②保健体育科教師の出身大学は、体育系私立大学出身者が、全体の6割以上を占める、③男女比は、7対3で男性教員の方が多い、④保健体育科教師は、若い頃から生徒指導や学級担任という仕事を学校の中で中心的に引きうけており、他方ではベテランになるにつれ、学年主任等の管理的業務を担うようになっていく、⑤副校長（教頭）や校長といった管理職へのキャリアアップも多い。保健体育科教師の3人に1人が校長

職に就いている、⑥保健体育科教師の必要だと思っている因子構造は、「情報活用力」<「授業構成力」<「人間関係力」<「運動指導力」<「生徒管理」の順に高くなっている。

しかしながら、松田の報告では、中学校の保健体育科教師やキャリアパターンに限定したものであり、保健や体育の授業に対する具体的な実態を明らかにしたものではない。

以上から、本稿では、保健体育科教師が保健や体育の授業を行う上でどのような事項に悩み事を感じているのかの実態を把握するとともに、学校内外の仕事を行う上でどのような悩み事を感じているか、またそれらの悩み事の解決方法についてどのような現状にあり、どのように望んでいるのかの実態を把握し、適切な援助方法を検討する際の基礎資料を得ることを目的とした。なお、本稿は、本調査に向けての予備的な調査としての位置づけである。

## 2. 研究の方法

### 2.1. 調査時期と調査対象

調査対象は、2009年度および2011年度に実施された広島大学における教員免許更新講習（「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（選択領域）」）を受講した中学校および高等学校における保健体育科教師である。

質問紙調査は、更新講習の終わりの際に、調査の趣旨を説明し、同意が得られた受講者に対して調査用紙を配布し、一斉に調査を実施しその場で回収した。対象者数は108名であり、このうち属性が不明であったり、校種が異なったりするなど回答項目が極端に不足しているデータを除く85名を分析の対象とした。表1は、その属性における教職歴と男女の割合を示している。

吉崎（1998）によれば、教師の生涯発達を「初任期（教職3年目ぐらいまで）」「中堅期（教職5

表1 受講者の属性

教師区分	全体の割合		男性		女性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
初任者教師	5	5.9	2	3.8	3	9.4
中堅者教師	16	18.8	12	22.6	4	12.5
熟練者教師	64	75.3	39	73.6	25	78.1
合計	85	100	53	62.4	32	37.6

年目から15年目ぐらいまで)」「熟練期(20年目以降)」の3段階に区分することを提案している。したがって、表1はその吉崎(1998)の定義に依拠して属性を分類した。

## 2.2. 調査の内容と方法

本調査で用いた質問紙では、加登本ら(2010)が設定した20項目の「体育授業の悩み事に関する内容」について、「1. まったく困っていない」から「5. とても困っている」までの5件法で回答を求め、さらに20項目のなかで困っていると強く思う順に3つまで項目番号を記入してもらった。なお、本調査では中・高等学校の保健体育科教師を対象としたため、「子ども」という文言を「生徒」に変更した。「保健授業の悩み事に関する内容」では、自由記述による回答を求めた。

「学校内外での悩み事に関する内容」について14項目を設定し、困っているもの上位5つを選択してもらった。その14項目の内容は、1. 部活動の運営や指導、2. 生徒指導について、3. 生徒指導以外の校務分掌、4. 学年主任について、5. 学級経営(担任や副担任)、6. 教科内での人間関係、7. 教科外(学年や他教科)との人間関係、8. 管理職との関係、9. 中体連や高体連のような外部団体との関係、10. 地域との関係、11. 保護者との関係、12. 教科内容の最新知識や教育に関する時事問題、13. 自分の生活時間の確保、14. その他、である。

「解決方法における現状と望み」における「解決方法(現状)」と「解決方法(望み)」については、上記での「学校内外での悩み事に関する内容」で選択した項目について、「同僚の先生に相談する」、「専門書を読んで勉強する」、「研究会・サークルで参加・相談する」、「研修会・講習会などで参加・相談する」等の8項目からその解決方法の現状を選択してもらった。さらに、その現状に対する解決の望みについても、先述した8項目の中から選択してもらった。

「属性」の内容は、性別、在職年数、校種の3項目の内容で構成した。さらに、今後の取り組みに対する要望について自由記述を求める内容の合計6つの内容で構成した(別資料を参照)。

## 2.3. 分析の方法

本稿では、前述したように、保健体育科教師が保健や体育の授業を行っていく上での悩み事に加え、学校内外の仕事をする上での悩み事の実態について分析する。

「体育授業の悩み事に関する内容」について、対象者全体における各項目の評定比率を算出した。

「保健授業の悩み事に関する内容」について、記述された内容を意味のまとまった文ごとに区切り、KJ法(川喜田, 1967)を用いて分類した。カテゴリーの分類とカテゴリーの命名は、教員養成に6年間従事している大学教員1名と、大学院生2名の計3名で協議して行い、3名の意見が一致しない項目は除外した。

## 3. 結果と考察

### 3.1. 対象者全体における体育授業の悩み事の項目別分析結果

対象者全体における各項目の評定比率は、図1に示すとおりであった。「とても困っている」と「困っている」を合わせた人数の割合で各項目をみると、割合が高い順に、「12. ニーズ」(32.2%)、「5.不得意」(28.9%)、「3. 示範」(28.6%)、「4. 把握」(25.0%)、「2. 指導技術」(23.1%)、「7. 技能向上」(20.2%)といった項目が挙げられるが、全体として「体育授業の悩み事」の認知は低い結果であった。

### 3.2. 保健授業の悩み事について

表2は、「保健授業の悩み事」として記述された内容を分類した結果である。表2によれば、保健体育科教師の保健授業に対する悩み事は、「制度・施設」「教師行動」「生徒の実態」「その他」の4つの大項目に分類された。

第1の大項目「制度・施設」は合計24個(39.3%)と最も多い。この項目は、学習指導要領の内容(とりわけ、性教育の内容)や教科書及び授業時間数といった制度、あるいは施設に関するものを含んでいるので「制度・施設」と命名した。この項目はさらに「性教育の内容」と「教育環境の整備」などの6つの小項目に区分された。第2の大項目「教師行動」は合計22個(36.1%)と2番目に多い。この項目は、授業を実施する前の教

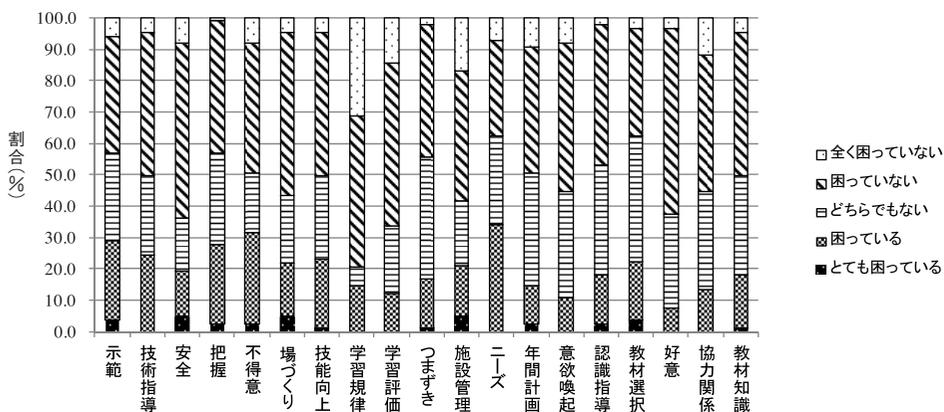


図1 対象者全体の各項目評定比率

表2 「保健授業の悩み事」の分類結果

カテゴリーⅠ	カテゴリーⅡ	代表的な記述例	記述数とその割合	
			記述数 (個)	割合 (%)
制度・設備	性教育に関する内容	性教育の分野でどこまで教えるべきか	8	39.3%
	教育環境・設備の不足	教材の不足。心肺蘇生法の実技をするのに道具がない	6	
	教科書の内容	あまりにも教える内容が教科書に書かれていない	5	
	授業時間数	保健の授業時間の確保	4	
	評価	評価の方法など	1	
教師行動	教材研究	生徒が興味を引く身近なことでの資料作成	16	36.1%
	教授行為	教師主導型の授業展開ではなく、生徒の思考判断を高める指導方法について	6	
生徒の実態	生徒の知識や思考	用語の理解がなかなか進まないこと	4	13.1%
	生徒の態度	主要科目でないため、なかなか本気で学習してくれない	4	
その他		男女比率が1対1でなく男子が多い	7	11.5%
合計			61	100

材研究の段階、そして保健授業の実施の際における教師の指導方法などを含んでいるので「教師行動」と命名した。さらに大項目は「教材研究」「教授行為」の2つの小項目に区分された。第3の大項目「生徒の実態」は合計8個(13.1%)と3番目の項目にあたる。この項目は、生徒の保健授業に対する知識や思考、そして態度を含んでいるので「生徒の実態」と命名した。第4の大項目「その他」は合計7個(11.5%)である。その小項目の内容が他の大項目にも属しないと判断したために設けた。

概して、保健授業の悩み事として、限られた設備や時間の中で、生徒の興味を引き出す保健授業を実施することが難しい実態が推察された。とりわけ、保健の学習内容の「生涯を通じる健康」に

あたる性教育については、近年の若者の性の実情や課題が多面的であり、しかも生徒の個人差などによる実態の相違への指導に悩みを抱えていることがうかがえる。また、保健体育科教師として、体育と保健の授業に加えて、部活動指導や校務分掌などの多くの仕事を抱える中での教材研究へかける時間のなさに悩みを抱えていることも推察できる。

### 3.3. 学校内外における悩み事

表3は、学校内外の仕事をする上で困っていることのうち、1番目、2番目、3番目に記述された項目について上位3つを示した。

表3からもわかるように、学校内外の仕事をする上で大きな悩みは、「自分の生活時間を確保

する」ことである。また、「生徒指導」や「生徒指導以外の校務分掌」に関する悩み事を上位に挙げている。この点について、松田（2010）は、「保健体育教師は、若い頃から生徒指導や学級担任という仕事を学校の中で中心的に引きうけており、他方ではベテランになるにつれ、学年主任等

の管理的業務を担うようになっていく」と指摘している。保健体育教師の実態として、こうした「生徒指導」や「生徒指導以外の校務分掌」といった業務に加え、運動部活動の指導等によって「自分の生活時間を確保する」ことが困難になっていると考えられる。

さらに、「教科の最新知識」も上位に挙がっている。このことは、武道やダンスの必修化等、平成24年度から全面実施される学習指導要領の改訂を受けた影響であると考えられる。

表3 学校内外における悩み事について

順位	1 番目	2 番目	3 番目
1	13. 生活時間の確保	13. 生活時間の確保	3. 生徒指導以外の校務分掌
2	2. 生徒指導 11. 保護者との関係	3. 生徒指導以外の校務分掌 12. 教科の最新知識	12. 教科の最新知識
3	8. 管理者との関係	2. 生徒指導	13. 生活時間の確保

### 3.4. 学校内外の悩み事の解決方法の現状と望み

表4は、学校内外の悩み事とその悩み事におけ

表4 学校内外の悩み事における解決方法の現状と望み

悩 み	解決方法	1	2	3	4	5	6	7	8
		現状	16	5	0	0	0	0	3
1. 部活動の運営や指導	望み	57%	18%	0%	0%	0%	11%	14%	
	現状	10	1	1	3	1	2	4	2
2. 生徒指導について	望み	42%	4%	4%	13%	4%	8%	17%	8%
	現状	22	2	1	0	1	0	1	3
3. 生徒指導以外の校務分掌	望み	73%	7%	3%	0%	3%	0%	3%	10%
	現状	11	2	2	8	3	0	0	1
4. 学年主任について	望み	41%	7%	7%	30%	11%	0%	0%	4%
	現状	17	0	1	4	1	0	0	8
5. 学級経営（担任や副担任）	望み	55%	0%	3%	13%	3%	0%	0%	26%
	現状	13	1	2	5	2	0	0	3
6. 教科内での人間関係	望み	50%	4%	8%	19%	8%	0%	0%	12%
	現状	5	2	0	0	0	0	0	2
7. 教科外（学年や他教科）との人間関係	望み	56%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	22%
	現状	7	0	0	0	0	0	0	0
8. 管理職との関係	望み	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	現状	6	3	0	0	1	0	2	2
9. 中体連や高体連のような外部団体との関係	望み	43%	21%	0%	0%	7%	0%	14%	14%
	現状	4	1	0	2	3	0	1	1
10. 地域との関係	望み	33%	8%	0%	17%	25%	0%	8%	8%
	現状	3	0	0	0	0	0	4	3
11. 保護者との関係	望み	30%	0%	0%	0%	0%	0%	40%	30%
	現状	3	1	0	1	0	0	1	1
12. 教科内容の最新知識や教育に関する時事問題	望み	43%	14%	0%	14%	0%	0%	14%	14%
	現状	6	0	0	0	0	0	2	2
13. 自分の生活時間の確保	望み	60%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	20%
	現状	3	0	0	0	1	0	2	2
1. 部活動の運営や指導	望み	38%	0%	0%	0%	13%	0%	25%	25%
	現状	12	0	0	1	0	0	2	4
2. 生徒指導について	望み	63%	0%	0%	5%	0%	0%	11%	21%
	現状	7	2	1	1	2	0	1	3
3. 生徒指導以外の校務分掌	望み	41%	12%	6%	6%	12%	0%	6%	18%
	現状	2	0	1	0	0	0	4	3
4. 学年主任について	望み	20%	0%	10%	0%	0%	0%	40%	30%
	現状	4	0	1	0	0	0	2	2
5. 学級経営（担任や副担任）	望み	44%	0%	11%	0%	0%	0%	22%	22%
	現状	10	0	0	1	0	1	1	3
6. 教科内での人間関係	望み	63%	0%	0%	6%	0%	6%	6%	19%
	現状	8	0	0	0	1	0	2	1
7. 教科外（学年や他教科）との人間関係	望み	67%	0%	0%	0%	8%	0%	17%	8%
	現状	18	0	1	0	1	0	3	3
8. 管理職との関係	望み	69%	0%	4%	0%	4%	0%	12%	12%
	現状	15	0	2	3	4	0	1	0
9. 中体連や高体連のような外部団体との関係	望み	60%	0%	8%	12%	16%	0%	4%	0%
	現状	16	10	2	5	1	0	0	1
10. 地域との関係	望み	5	5	4	7	2	0	2	2
	現状	19%	19%	15%	26%	7%	0%	7%	7%
11. 保護者との関係	望み	16	1	2	0	2	0	7	21
	現状	33%	2%	4%	0%	4%	0%	14%	43%
12. 教科内容の最新知識や教育に関する時事問題	望み	8	0	0	2	7	0	7	16
	現状	20%	0%	0%	5%	18%	0%	18%	40%

る解決方法の現状と望みを示したものである。各項目における解決方法の現状と望みについて、割合をそれぞれパーセンテージで示している。

表4からわかるように、ほとんどの項目で、解決方法の現状と望みには差があり、葛藤を抱えている様子がうかがえる。たとえば、「2. 生徒指導について」や「12. 教科内容の最新知識や教育に関する時事問題」の悩み事については、「③研究会・センターで参加・相談する」や、「④研修会・講習会で参加・相談する」、「⑤教育委員会・センターの先生に相談する」といった学校外の場を望んでいるにもかかわらず、現状としては「①校内の同僚に相談する」が多い傾向にある。

#### 4. まとめ

本研究の目的は、保健体育科教師が保健や体育の授業を行う上でどのような事項に悩み事を感じているのかの実態を把握するとともに、学校内外の仕事を行う上でどのような悩み事を感じているか、またそれらの悩み事の解決方法についてどのような現状にあり、どのように望んでいるかの実態を把握し、適切な援助方法を検討する際の基礎資料を得ることであった。その結果、以下のようにまとめることができる。

1. 本研究で対象とした保健体育科教師は、体育授業の悩み事の認知は低い傾向にあった。
2. 保健授業の悩み事については、大きく「制度・設備」「教師行動」「生徒の実態」「その他」の4つに分類され、限られた設備や時間の中で、生徒の興味を引き出す授業を行うことが難しい実態が推察された。
3. 学校内外における悩み事については、「自分の生活時間を確保する」「生徒指導」「生徒指導以外の校務分掌」「教科内容の最新知識や教育に関する時事問題」に関する悩み事が上位に挙げられていた。
4. 学校外の悩み事における解決方法の現状と望みについて、現状としては「①校内の同僚に相

談する」が多い傾向にあるが、望みとして、学校外の場を求めている傾向も見られた。

本研究で明らかになった以上の点を踏まえて、本調査の実施に向けて質問紙を再考し、調査対象のサンプル数を増やす予定である。さらに本研究では、対象者全体の傾向を把握することにとどまっている。今後は、教職年数や性別等、保健体育科教師の諸条件を踏まえて事例的に支援のあり方を検討していくことも重要であろう。

#### 〈付 記〉

本研究の一部は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤B）（課題番号21300221，研究代表者・木原成一郎）の補助を受けて行われた。

#### 〈引用文献〉

- 中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会基本制度ワーキンググループ（2011）「現職教員の資質能力の向上について」
- 加登本仁・松田泰定ほか（2010）「体育授業の悩み事に関する調査研究（その1）－教職経験に伴う悩み事の差異を中心として－」学校教育実践学研究，16：85-93.
- 加登本仁・松田泰定ほか（2011）「体育授業の悩み事に関する調査研究（その2）－悩み事の解決方法を中心として－」学校教育実践学研究，17：169-174.
- 川喜田二郎（1967）「発想法」中公新書.
- 松田恵示（2010）調査研究からみえてきた教師の職能成長．梅野圭史・海野勇三・木原成一郎・日野克博・米村耕平編著「教師として育つ－体育授業の実践的指導力を育むために」明和出版：pp.122-127.
- 文部科学省（2006）「学校教育法施行規則の改正等について（通知）」.
- 吉崎静夫（1998）ひとり立ちへの道筋．浅田匡ほか編「成長する教師」．金子書房，pp.162-173.

## 別資料

## 保健体育科教師における力量形成に関する調査

## 〈調査への協力のお願ひ〉

本調査は、科学研究費補助金の交付を受けて実施される「体育教師の継続的な力量形成を保証する現職教育プログラム」の研究の一環として行われるものです。調査は、より充実した保健体育授業を行っていく上での諸課題を調査し、そこでの課題や問題点を整理・考察することにより、効果的な現職教育プログラムのあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施されるものです。

どうぞ調査の主旨にご賛同いただき調査にご協力くださいますようお願い致します。なお、回答いただきました内容は、調査の目的以外には使用いたしませんので、あなたが普段考えておられる通りお答えください。

## I. 現在の保健・体育指導で困難に思っていること

(1) 現在、体育の授業を行う上で、あなたはどのようなことに困っておられますか。

次のそれぞれの項目について該当する数字（1. まったく困っていない 2. 困っていない 3. どちらでもない 4. 困っている 5. とても困っている）に○をつけてください。

- |                               |                   |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 自分が模範を示せない種目の運動を教えることができる  | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 2. それぞれの運動領域に必要な運動技術を指導できる    | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 3. 生徒を安全に運動させる                | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 4. 授業中に一人ひとりの生徒の学びを把握できる      | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 5. 運動の苦手な生徒への配慮ができる           | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 6. 安全で効果的な場づくりをすることができる       | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 7. 運動技能を向上させるための指導ができる        | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 8. 適切な学習規律が維持できる              | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 9. 生徒の学習活動を公正に評定できる           | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 10. 生徒たちの運動のつまずきを診断できる        | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 11. 体育用具の準備や体育施設の管理ができる       | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 12. 配慮を要する生徒のニーズに応えることができる    | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 13. 体育授業の年間指導計画が適切に作成できる      | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 14. 生徒の意欲が喚起できる               | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 15. 生徒がわかってできる体育の指導ができる       | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 16. 生徒の実態に合わせた教材づくりができる       | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 17. 生徒が私の授業を好意的に評価してくれる       | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 18. 生徒同士の協力的な関係がつかれる          | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 19. 教える運動についての知識がある           | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| 20. その他で困っていることがあれば下に書いてください。 |                   |

( ) 1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q. 上の質問で、困っていると強く思う順に3つまで項目の番号を記入してください。

一番目	二番目	三番目

(2) 現在、保健の授業を行う上で、あなたはどのようなことに困っておられますか。下記に自由記述してください。

( )

(3) 現在、学校内外の仕事をする上で困っていることは何ですか。次の1～14の項目の中から困っていると思う順に5つまで答えてください。

- |                                 |      |                      |
|---------------------------------|------|----------------------|
| 1. 部活動の運営や指導                    | 1 番目 | <input type="text"/> |
| 2. 生徒指導について                     |      |                      |
| 3. 生徒指導以外の校務分掌                  |      |                      |
| 4. 学年主任について                     | 2 番目 | <input type="text"/> |
| 5. 学級経営（担任や副担任）                 |      |                      |
| 6. 教科内での人間関係                    |      |                      |
| 7. 教科外（学年や他教科）との人間関係            | 3 番目 | <input type="text"/> |
| 8. 管理職との関係                      |      |                      |
| 9. 中体連や高体連のような外部団体との関係          |      |                      |
| 10. 地域との関係                      | 4 番目 | <input type="text"/> |
| 11. 保護者との関係                     |      |                      |
| 12. 教科内容の最新知識や教育に関する時事問題        |      |                      |
| 13. 自分の生活時間の確保                  | 5 番目 | <input type="text"/> |
| 14. その他（ <input type="text"/> ） |      |                      |

(4) あなたは、上記の5つの困ったことを、どのように解決していますか（現状）。また、これからは、どのように解決したいとお考えですか（望み）。現状と望みそれぞれについて、記入例にならってお答えください。

<b>【解決方法】</b> ①校内の同僚に相談する。 ②専門書を読んで勉強する。 ③研究会・サークルで参加・相談する。 ④研修会・講習会などで参加・相談する。	⑤教育委員会・センターの先生に相談する。 ⑥大学の先生に相談する。 ⑦学外の知人・友人に相談する。 ⑧その他	<答え方（例）> ●番目 現状（①） 望み（⑤）
---	---	-----------------------------------

	1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目
現状（ <input type="text"/> ）	（ <input type="text"/> ）				
望み（ <input type="text"/> ）	（ <input type="text"/> ）				

## II. あなた自身について

- (1) あなたの性別および教職年数は： 1. 男性 2. 女性 教職歴（）年
- (2) あなたはこれまで主にどの校種で勤務することが多かったですか。  
 1. 中学校 2. 高等学校 3. 両方 4. その他（）

※ご協力たいへんありがとうございました。より充実した体育指導を行っていくために、現職教育として大学や教育委員会等が取り組むべきことについてご意見がございましたら是非お聞かせください。

(大学)

(教育委員会)

(その他)